

おはようございます。本日より、令和7年度が始まります。皆さんの春休みは充実していましたか。新年度を迎える準備は万端でしょうか。

3年生は自らの進路実現に向けての大切な一年となります。そして、多くの人は卒業までに成人年齢に達することになります。自らを改めて見つめなおし、大人になることへの自覚も深めながらこの一年を過ごしてください。2年生は学校の中堅学年として、午後、入学してくる新入生を導きながら、勉強はもちろん、部活動や地域活動など、様々なことにチャレンジしてください。

ともあれ、新学期は心機一転、新たな目標を掲げて、前向きであろうとする気持ちと、これまでと変わってしまうことへの不安とが入り交じる、そんな時期です。タレントのローランドさんは、あるテレビ番組で、「先が見える人生の方がよっぽど怖い。成功する、しないは抜きにして、先が見えない方が絶対に楽しいと思う。先が見えないからこそ努力し、考え、前に進むことができる。もし先が見えたら、何も考えずに流されていくだけでしょう。」と発言していました。この言葉を聞いて、私は新学期の不安はこれから起こることに対して、誠実に向き合い、真剣に考えて、一歩ずつ前に進むためのものだという事に気が付きました。

今年、野村高校は創立80周年です。今年度は創立80周年という冠言葉のついた記念行事がたくさん行われます。また、校内の動物展示施設の建設もはじまり、皆さんから募集した「のむこうふれあい動物園」が、今年度中にいよいよ完成する予定です。忙しい一年になることと思いますが、先ほどの言葉を糧に、先の見えないことを楽しむ気持ちで、皆さんも一緒に頑張ってもらいたいと思います。

また、学習はもちろん部活動や地域活動など、いろいろと忙しい皆さんですが、今年は「どうせできんし」「やっても無駄やろう」などの言葉を封印して、「やってみるか」を合言葉に、本気で挑戦する年にしてほしいと思います。

日本人初のアメリカ野球殿堂入りを果たしたイチローさんは、「自分にできると思ったことが必ずできるとは限らない。だけど、自分ができないとってしまったら絶対にできない。自分なりに頑張っていたら、何か光が見えるということを知ってほしい」と小学生に向けて話されたそうです。

「自分なりに頑張る」ことをし続ける、そして何かをつかむ、そういった一年を過ごし、皆さんがより一層の飛躍を遂げる一年となることを期待して、第1学期始業式の式辞といたします。

令和7年4月8日

愛媛県立野村高等学校長 松井 由紀子